



池田光政画像(「繩武像」のうち)林原美術館蔵

企画展 平成29年10月7日(土)～11月12日(日)

2 鳥取入府400年 **池田光政展** とのくにが ～殿、国替えにござります～

企画展 平成29年11月23日(木・祝)～12月24日(日)

3 **フジフィルム・フォトコレクション展**
—日本の歴史を飾った写真家の「私の一枚」—

企画展 平成30年2月3日(土)～3月18日(日)

4 **モダンアート再訪** くさま やよい —ダリ、ウォーホールから草間彌生まで
福岡市美術館コレクション展

5 [自然] 資料紹介 **ジャケツイバラ**

6 [人文] 資料紹介 **大日寺瓦経**

コラム **徳川将軍に献上された鳥取藩の食材**

7 [美術] 新収蔵品紹介 **土方稻嶺筆《興国寺書院襖絵》**

活動紹介 **本物に触れる機会を、いろんなところで。—館外事業のご紹介**

8 **新館長就任あいさつ、移動美術館・移動博物館**

鳥取入府400年 池田光政展 ～殿、国替えにござります～

(主催)「池田光政展」実行委員会

2017年(平成29)は、播州姫路42万石の城主池田光政(1609～82年)が国替えによって、因幡・伯耆の2国(ただし大山寺領を除く)を合わせた32万石の藩主となった1617年(元和3)から400年に当たります。

因幡と伯耆を一人の大名が治める鳥取藩32万の枠組みは、このときに初めてスタートしましたが、この領域を現在の鳥取県がほぼ引き継いでいるという意味で、400年前の国替えは、今につながる歴史的な出来事のひとつといえるでしょう。

池田光政といえば、現在の高等学校の日本史教科書にも登場する江戸時代前期を代表する大名の一人で、一般には備前岡山藩主として、庶民教育のために閑谷学校を開設した業績が知られています。その一方で、光政が鳥取藩主であったことや、その治績は、わずか15年余りの短い統治だったこともあって、十分に認識されてきませんでした。また光政本人も9歳から24歳までの青年期であったことから、藩主としての権力を十分に確立できておらず、藩政は家老の合議によって進められました。

しかし、この期間には藩政の中心を担う場所(居城)の決定、鳥取城の改修、城下町の拡張整備など、みるべき業績をあげています。なかでも領国の中心地をどこに定めるかは、光政が入国するまでに決定すべき緊急の課題でした。居城の候補地としては、すでに町が整備されていた鳥取、米子、倉吉、布施(現鳥取市布勢)のほかに、未整備ながら領国のほぼ中央に位置する茶



因幡国鳥取絵図(岡山大学附属図書館蔵)

臼山(現北栄町)があげられていたといえます(「因幡民談記」)。これらの候補地から整備コスト、土地条件、必要面積などの諸条件を比較した結果、鳥取を整備拡張する方針が決定されました。写真の絵図は、元和5年(1616)に2代将軍徳川秀忠に提出した鳥取城下の普請計画図の控えと考えられるもので、同年から3年間にわたって行われた整備は、鳥取城下の構造を大きく改変するものでした。たとえば大勢の家臣団や商工業者を集住させるため、外側に新しい川を掘って町を囲い込み、その内側に道路を直交させた長方形の街区をつくって、町屋地区を整備しました。この新しい川は、城下町を洪水から守るための治水対策も兼ねており、有事には外敵を防ぐ砦ともなりました。高度な土木技術によって自然地形を変える大工事は、因幡・伯耆の人夫を動員するかつてない規模のもので、新藩主光政の権威を領民に示す意味でも大きな効果があったと思われます。ちなみに、この新しい川は袋川として現在も市民に親しまれており、鳥取市中心市街地の原型はこのときに形づくられたと聞いていいでしょう。



(国重要文化財)綾杉地獅子牡丹葵紋蒔絵調度の内[厨子棚](林原美術館蔵)

また、光政が鳥取藩主として過ごした15年余りの歳月は、成人や結婚といった人生の重要な節目にあたっており、様々な能力を習得し、国を治める者としての生き方や価値観を形成していく過程にあったと考えられます。本展では、光政の夫人となった勝姫(徳川秀忠養女)が輿入したときに作られた伝承のある豪華な婚礼調度や、修養の一端を知ることができる和歌なども展示します。また池田家一門を紹介するコーナーでは、叔父にあたる岡山城主池田忠継の坐像を展示します。この木像が岡山県外で公開されるのは、本展が初めてとなります。このほか会期中の関連イベントとしては、光政が好んだ鷹狩りにちなんで、諏訪流放鷹術の実演も行います。

本展は、約100点余りの歴史資料を通じて、400年前の国替えという歴史を振り返り、現在の鳥取県の骨格を作ったともいうべき若き藩主池田光政と、それを支えた家臣たちの足跡を紹介します。

(学芸課 来見田 博基)



池田忠継坐像(岡山市・清泰院蔵)

《関連イベント》

- 10月9日(月・祝)《歴史講座》池田光政という人物
- 10月15日(日)《歴史講座》池田光政の足跡をたずねて①～鳥取城下でぶらり～
- 10月22日(日)《歴史講座》姫路・鳥取・岡山～大名池田家のつながりとひろがり～
- 10月29日(日)《歴史講座》池田光政の足跡をたずねて②～鳥取城跡でぶらり～
- 11月5日(日)《歴史講座》鳥取城で鷹狩り！～諏訪流放鷹術の実演～

■企画展観覧料：一般/800円(団体・前売・大学生・70歳以上/500円)高校生以下無料

フジフィルム・フォトコレクション展

—日本の歴史を飾った写真家の「私の1枚」—

(主催)「富士フォト展」実行委員会 (特別協力) 富士フィルム株式会社 (監修協力) フォトクラシック (制作協力) 株式会社コンタクト

近年デジタルカメラやスマートフォンの普及に伴い、誰もが容易に写真を撮って楽しむ機会が増えました。FacebookやInstagramなどのSNSには、日々多くの写真が溢れています。我々にとって、写真がより身近な存在になったことはいうまでもありません。一方で、従来のフィルムを使用して撮影しプリントする機会は減少の一途を辿っています。そのため、フィルムの製造を中止するメーカーやプリントラボを閉鎖する企業も少なくありません。このように「写真」をめぐる環境が大きく変化する時代において、日本の写真



牛腸茂雄《(SELF AND OTHERS)より》1977年

界の軌跡をかたちづけてきた写真家たちの作品を改めて見つめ直すことは、日本の写真家の層の厚みを再認識するとともに、「写真」とは何かを考える機会となるでしょう。

この秋の企画展でご紹介する「フジフィルム・フォトコレクション」は、2014年に富士フィルム株式会社の創立80周年を記念して収集された優れた写真作品群です。日本に写真術が伝来した幕末から、銀塩写真が最盛期を迎えた20世紀を経て現代に至る日本の写真史を彩る101名の写真家の代表的な作品である「この1枚」を、銀塩プリントにより後世に残す目的で創設されました。

銀塩プリントとは、光を感じる銀を含む「乳剤」という薬品を紙などに塗った「印画紙」に、原稿の画像の光を投影して焼付けし、現像液で現像して仕上げるプリントのことです。レーザープリントやインクジェットプリントが普及するまでの間、最も一般的に用いられてきたプリント技法といえます。その魅力は何ととってもプリントの美しさとプリント毎の微妙な差異にあります。美しいプリントに仕上げる

には、材料や機材の扱いに卓越したプリントマンの技術が必要であり、モノクロ、カラーいずれも銀塩によるオリジナルプリントで構成されたフジフィルム・フォトコレクションは、写真家、プリントマンそれぞれの技を堪能することができます。

このたびの展覧会は次の5つの章立てにより構成されます。①「写真の黒船がやって来た」幕末から明治、②「アマチュア写真家たちの誕生」大正～昭和前期、③「激動の時代をとらえる」戦後～1960年代、④「新世代の台頭」1970年代、⑤「新たな写真の展開」1980年代～。101名の日本を代表する写真家の中には、林忠彦や木村伊兵衛、牛腸茂雄、森山大道、荒木経惟、野町和嘉らと共に、鳥取県出身の5名の写真家、塩谷定好、田淵行男、植田正治、岩宮武二、杵島隆が含まれています。多くの写真家によって築き上げられた写真界の発展の軌跡をご覧いただくとともに、鳥取県出身の写真家たちの表現の特質を、日本の写真史全体から俯瞰する貴重な機会ともなると思われますので、どうぞご期待ください。

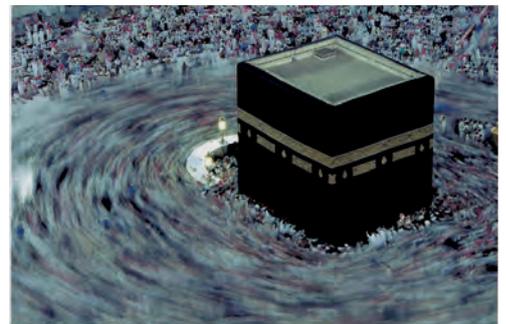
(美術振興課 林野 雅人)



日下部金兵衛《舞子の浜の人力車》1880年代



杵島隆《老婆像》1948年



野町和嘉《ライラトル・カドルの礼拝 メッカ》1995年
※掲載画像は全て富士フィルム株式会社蔵

《関連イベント》

- 11月23日(木・祝)午後2時～3時 「スペシャルギャラリートーク」
- 11月25日(土)午後2時～3時30分 「特別講演会」
- 12月2日(土)午後2時～3時 「ギャラリートーク」
- 12月9日(土)午後2時～3時30分 「アートシアター『ヴィヴィアン・マイヤーを探して』」

■企画展観覧料：一般/800円(団体・前売・大学生・70歳以上/500円)高校生以下無料

本展の開催にあわせて、テーマ展示Ⅲ「アートコレクション選Ⅰ 写真」において、当館が所蔵する塩谷定好、杵島隆、植田正治、岩宮武二の写真コレクションをご紹介します。

1970年代から80年代にかけて日本各地に美術館や博物館が建設されました。鳥取県立博物館もその一つです。しかし建築から半世紀近く経って、多くの施設が老朽化や設備の不全に苦しんでいます。このため、鳥取県では新たに美術館が建設され、博物館もリニューアルの準備が進んでいることはお知らせしているとおりです。

本県のみならず現在、京都市美術館、滋賀県立近代美術館、あるいは富山県立近代美術館といった多くの公立美術館がこのような改修や新築工事に入っています。1979年に建設され、古美術と近現代美術のコレクションで知られる福岡市美術館もその例に漏れず、2019年3月のリニューアルオープンに向けて、現在、改修工事が進められています。

ところで改修工事にあたって美術館を悩ませる難問の一つに、工事中、作品をどのように保護するかという問題があります。温湿度の厳重な管理を必要とする美術作品を長期間収蔵する代わりに場所を探すのは容易ではありません。しかし逆転の発想として、工事期間中に作品を外部に貸し出す。さらにコレクションによる巡回展を組織す



草間彌生 《夏1》 1985年

るというアイデアも生まれました。20世紀末に日本で欧米の主要な美術館のコレクション展が相次ぎましたが、これはミレニアムを目前に改装工事に入った美術館が多かったことを背景としています。通常であれば有名な美術館の作品をまとめて借り受けることは大きな困難が伴いますが、工事期間中はむしろ多くの名品を外部で展示して美術館の存在感を示すことができます。

来年、本館で開催される福岡市美術館のコレクション展「モダンアート再

訪」はこのような機会を生かして、休館中の福岡市美術館の近現代美術コレクションを日本各地で紹介する試みです。先に述べたとおり、福岡市美術館は古美術と近現代美術に特化した国内でも屈指のコレクションを所蔵する美術館ですが、今回の展覧会ではこのうち近現代美術の名品70点余りを展示します。ダリやミロ、シャガールといったヨーロッパの名の知られた巨匠の作品からマーク・ロスコやアンディ・ウォーホルといったアメリカの現代美術を代表する作家の名作、赤瀬川原平や篠原有司男といった今日世界的に再評価の進む日本の作家にいたるラインナップはまさにモダンアートを一覧する絶好の機会といえるでしょう。さらに注目すべきは地方美術館らしく、九州派や具体美術協会といった活動時にあってはローカルでありながら今日高く評価されるグループの優れた作品を多く収蔵していることです。巨匠の名品から先鋭的な作品まで、モダンアートの中核から地方独自の美術運動まで、美術についてのさまざまな視点を提供する展覧会にご期待ください。

(副館長兼美術振興課長 尾崎 信一郎)

フラクテスデラ
《バスラ門Ⅱ(分度器シリーズ)》1968年
©Frank Stella / ARS, New York / JASPAR, Tokyo, 2017 G1023



マルクシャガール 《狂想曲(ネトラメント)》1904年
©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2017. Chagall® G1023



《関連イベント》

会期中の土曜日には、講演会、ギャラリートークなどのイベントを予定しています。

■企画展観覧料：一般/800円(団体・前売/600円)大学生以下無料

※掲載作品は全て福岡市美術館蔵

ジャケツイバラ



写真1:マメ科のツル植物「ジャケツイバラ」



写真2:つるの乾燥標本(部分)、棘はデニムも通す



写真3:押し葉標本に見られる先の曲がった棘

鳥取県立博物館には現在、約4万点の植物標本があり、その多くは押し葉標本です。押し葉標本は乾燥した植物を、A3サイズ程度の台紙に貼り、採集地や採集者、採集日などを記入したラベルを添えたものです。

ところが、台紙の中で、植物の姿や特徴を分かりやすく閲覧者に伝えることはなかなか難しいことです。草丈の高い植物では、V字型やN字型に折り曲げて台紙に収めます。さらにヒマワリほどになると、数枚に分けて標本にします。

樹木では木の幹を台紙に貼るわけにはいきませんから、葉や花や実などをつけたその種類の特徴がわかる枝を押し葉にしています。その結果、アカマツの赤みがかかった樹皮やウリハダカエデの瓜の肌を思わせる樹皮などはとても大切な特徴でありながら普通の押し葉標本では確認できないこととなります。そこで、博物館では樹木の幹やつる植物の木質化したつるを乾燥標本として保存し、展示資料の充実に努めています。

さて、ジャケツイバラは宮城・山形

県以南の本州から沖縄までの日本各地、朝鮮・中国に分布するマメ科のツル植物です。鳥取県内でも低山の山裾などに点々とみられ、5月の花の頃には遠くからでも鮮やかな黄色の花を見つづけることができます(写真1)。ジャケツイバラの名前の由来は、太いつるがヘビがとぐろを巻いているように見えることから「蛇結いばら」ということです。ヘビにたとえられた太いつるはもとより、葉の表や裏、巻きひげにもたくさんの棘がある、美しさからは想像できない棘だらけの植物です。

写真2は1991年に道路工事に伴って伐採されることがわかり、その前に採取したつるの乾燥標本です。太いところは5cmほどあり、このつるに一本一本丁寧に根元を補強したような大きな棘がたくさんついています。この大型の棘はデニムのズボンも簡単に貫通します。福島県と宮城県の県境付近で本種が見つかったときに、種名がわからなかった発見者が「鬼の金棒というのはこのようなものと思われる」とつるの一部を東北大学に持ち込んだという逸話が残っているくらいです。

ところで、ジャケツイバラの群落の中で作業すると、つるの部位によって2種類の棘があることがわかります。一つはデニムも通す痛い棘、もう一つは衣服に同時多発的に絡みつく実にうっとうしい棘です。後者は枝先や葉の周りに多い先の曲がった棘で、他の樹木に引っかけてよじ登るのにより適した棘です。こちらは先に紹介した一般的な押し葉標本でも確認できます(写真3)。つると押し葉、2通りの標本でジャケツイバラのつるの特徴が伝われば、ありがたいことです。

ジャケツイバラのつるや押し葉標本は、インターネットをとおして画像をご覧ください。鳥取県立博物館のホームページから、「収蔵資料・刊行物」→「収蔵資料データベース(美術・人文・自然・図書)」→「地学・生物」→「維管束植物」→「自由にさがす」から「ジャケツイバラ」と入力してください。画像は、拡大縮小の操作ができますから、この紙面以上に2種類の痛そうな棘をつぶさに比較いただけます。

(学芸課 きよすえ ゆきひさ 清末 幸久)

資料紹介

大日寺瓦経

今回、ご紹介する大日寺瓦経は、奈良国立博物館所蔵の大日寺瓦経とあわせて平成30年2月27日～3月25日に歴史・民俗展示室で展示する予定です。

世の中を悲観して使われる「世も末」という言葉は、日本で平安時代に流行した末法思想を語源とする言葉です。末法思想とは釈迦の死後、仏の教えがすたれると考える歴史観です。平安時代には永承7年(1052)に末法の世に入ると、修行する者もさとりをえることもなくなると信じられていました。そうした時代に釈迦の教えがこの世界

から無くなってしまわないように、仏教の経典を土中に埋めた経塚という遺跡が各地につくられました。経塚は青銅製の経筒に紙本経を納めるものが多いのですが、紙のお経はいずれ朽ちて無くなってしまおうので、瓦経という板状の焼きもののお経を作り始めました。

大日寺瓦経は、倉吉市桜にある大日寺周辺で出土した瓦経です。当館をはじめ鳥取県内外の博物館などが多くの瓦経を所蔵しています。

大日寺瓦経は、延久3年(1071)という日本で最も古い紀年銘が刻まれていて、色や大きさなどの規格が統一されていない初現的な特徴があります。例えば、白や黒の色調の違い、硬軟の焼成の違いや、ヘラ・

糸・墨などで引く罫線の違いなど多様です。

参加している筆者の多さも特徴の一つです。願主とされる成縁という僧は、善い行いによって諸仏の出生に会うため、人々を集結させて瓦経を作るのだと言います。作られた瓦経は、必ずしも整然と埋納されていない点や、場所や人をかえて何セットも製作されている点などから、仏教の教えを後世に残すためというより、製作すること自体が極楽往生を願う行為だったとも言われています。寺社参拝やお墓参りなど、気づけば自分の願いばかり祈ってしまうことがあります。瓦経に刻まれた筆跡にもご利益を願う人々の声が聞こえてきそうです。

(学芸課 酒井 雅代)



大日寺瓦経(鳥取県立博物館蔵)

コラム

徳川将軍に献上された鳥取藩の食材

江戸時代の大名は、義務として将軍に地元の名産品を献上する「時献上」を行っていました。通常、時献上は数ヶ月に一度行われるものですが、鳥取藩は毎月献上をしなければならない3つの藩のうちのひとつとされており、月替わりでいろいろな産物を将軍に献上していました。

江戸時代後期の鳥取藩の献上品を見ると、正月の干鯛を皮切りに、蒸鱈(2月)、干鱈(3月)、塩鴨(4月)、塩雉子(5月)、串海鼠(6月)、串鮑(7月)、塩鮎(8月)、塩鱈(9月)、塩鱈・塩鮭(10月)、塩鶴・塩鮭(11月)、塩雁・塩鶴(12月)と続きます。このように、献上されていたのは海産物や鳥類をはじめとする多様な食材であったことがわかります。

献上品は鳥取藩内で捕獲・加工され

たものであり、当時の記録から産地が判明します。例えば、「蒸鱈(蒸したカレイではなく「ムシガレイ」と呼ばれる種類で塩漬もしくは干魚)」は現在の岩美町田後・網代産、塩鮎は鳥取市用瀬町周辺の千代川産、塩鱈は米子周辺の中海産、塩鱈は境港市外江町産、塩鮭は鳥取市円通寺周辺の千代川産、串海鼠は岩美町大羽尾、青谷町夏泊産、鶴や雁は日野川や天神川の河口部で採れたものでした。

献上品は、毎月鳥取・江戸間を陸路で輸送されるため日持ちのする塩漬や干物でした。しかし、その途次、献上品が傷む可能性もあったため、江戸へ輸送される量は献上される量の数倍から数十倍に及びました。例えば5月に献上された「塩雉子」はオス5羽を献



雉子献上の様子(当家贈物覧(鳥取県立博物館蔵))

上することになっていましたが、実際に江戸へ輸送された量は50羽でした。江戸で大量に残った産物は、幕府の重役や親戚大名への贈答品のほか、藩主の胃袋に消えるものもありました。

このほか、不定期に将軍に献上された産品は、川茸、塩雲雀、海素麵(岩美町産)、浜漬鯛(琴浦町松谷産)などが見られます。こうした多様な産品を毎月かさざず将軍に献上することができたのも、豊かな海と山、里に恵まれた鳥取ならではのと言えるのではないのでしょうか。

(学芸課 大嶋 陽一)

新 収 蔵 品 紹 介

土方稲嶺筆《興国寺書院襖絵》

JR和歌山駅を出発し、車窓から見えるみかん畑や、太平洋の海の青さに目を奪われながら各駅停車で揺られること五十分、紀伊由良駅に到着します。駅前の“門前”という名の交差点は、そこが安貞元年(1227)創建の西方寺を前身とする、鷲峰山興国寺の前であることを意味しています。源実朝の菩提を弔うために創建され、後に法燈国師(心地覚心、1207～1298)を開山に迎え、臨済宗法燈派の大本山として全国に百四十三ヶ寺もの末寺があった興国寺ですが、天正十三年(1585)、羽柴秀吉による紀州征伐により伽藍の大部分を焼失し、慶長六年(1601)に紀州藩初代藩主・浅野幸長によって再興されました。

大門をくぐり、長い歴史を感じさせる風情ある石畳の参道を登った先に、

山門、法堂、禅堂、開山堂、庫裏、書院など立派な伽藍が広がります。この書院にはかつて、鳥取画壇の祖とも言われる土方稲嶺(1741～1807)が筆を揮った襖絵がはめられていました。八畳敷が四間あり、床と違い棚、付け書院を備えた庭を臨む一之間には山水図が、二之間には竹林七賢図が、手前の三之間と四之間には鯉や鳥などが描かれた花鳥図が画題として選ばれており、襖絵の総数は三十八面を数えます。寛政八年(1796)、稲嶺が鳥取藩絵師として召し抱えられる二年前の、京都を中心に活動していた時期の制作と判明し、現在残る稲嶺の最大規模の作品として大変貴重なものです。昭和の大改修の際に新しい襖絵が作られたため、稲嶺の襖絵は襖としての役割を終えました



土方稲嶺筆《興国寺伝来 岩に鳥図》(部分)

が、このたび当館に御寄贈いただけることとなり、今後は鳥取の地で、襖絵にとつての新たな人生がスタートすることとなりました。経年の劣化による傷みが相当あるため、現在少しずつ修復を進めており、来年秋に開催する企画展「土方稲嶺」にて、修復後の姿を初めて披露する予定です。是非ご注目ください。

(美術振興課 山下 真由美)

活 動 紹 介

本物に触れる機会を、いろんなところで。一館外事業のご紹介

博物館に来館されると、当然のことながら様々な作品をご覧いただけますが、当館から離れた場所でも当館美術部門のコレクションや体験的な活動を通して、美術の魅力を感じていただけるプログラムがあるのをご存知でしょうか。(下図参照)

では、なぜ、このような事業を行っているのでしょうか。

以前、館内でのギャラリートークで、作品の横に同じ作品が載ったポスターを並べたことがあります。ここで参加者から驚きの声が上がりました。実物でははっきり見える色彩の変化が、印

刷物からはうまく読み取れないのです。深みのある色彩や作家の手技がそのまま残された絵肌といったものは、やはり“本物”でないと伝わらない、ということをお自身も改めて実感する一幕でした。この他、実物の作品に触って鑑賞する企画や作家と直接お話しする機会などが、いかにリアリティを伴って心を動かしてくれるのかを、地域や年齢を問わず幅広い参加者の反応に感じています。本物によって美術の魅力を伝える、ということもありますが、シンプルに、身近なところでも美術を楽しんでいただける場が増えれば、と活動を続けています。私たちと一緒に、本物に触れられる場をつくってみませんか。

(美術振興課 山本 亮)

鳥取の美術入門講座 & コレクション宅配便

県内の学校や公民館などを訪れ、レクチャーや体験的な活動を行います。また、コレクション宅配便では、当館美術部門のコレクション(主に彫刻・工芸等、レプリカ含む)とともに学芸員が出張し、1日限りのプチ展覧会を開催します。

アーティストの世界に触れてみよう!

現在活躍中のアーティストから直接レクチャーを受け、ものづくりに対する思いやその作品に触れることができる企画です。実施内容は依頼者の希望をお聞きし、相談しながら調整していきます。

移動美術館

年に2回程度、県内の展示施設にて当館の所蔵作品を紹介する展覧会を開催します。最近では、智頭町石谷家住宅、北栄町北条歴史民俗資料館等で実施し、この秋には、日南町美術館にて洋画の展覧会を開催します。



中浜公民館でのワークショップの様子

新館長就任あいさつ

博物館・美術館ってなんだろう？

我が国では明治期に英語のNATURAL HISTORYの訳語として、博物という言葉が誕生しました。アジア諸国は為政者からの制約が強く、支配民に向けての公開展示の発想が稀薄で、アジア全体を見渡しても明治期までは公開展示機能が発達することはありませんでした。我が国でも当初は、博物に自然科学に関するもの（動物・植物・鉱物）から書画も美術も何から何までが包含され、明治期以前には美術という概念もなく、英語のFINEARTを美術と訳しMUSEUMを博物館的な意味合いに置き換え、仏像をはじめ剥製、物理標本、薬物植物資料、硯箱や蒔絵などの工芸品、書画や絵画、彫刻などあらゆるものが混然と所蔵展示されていたようです。

その後近代化が進むなかで、整理分類され自然科学的なものは博物館へ、美術的なものは美術館へと棲み分けが進んだもので、日本における美術館の原点は博物館と言え、その意味で、鳥取県立博物館は総合博物館として日本の原点の姿を残していると言えます。

そして昨年度末、鳥取城跡という国史跡内に立地する制約による狭隘化などの現状を踏まえ、美術機能を新美術館として位置づける基本構想を策定し、現在、基本計画づくりなどの具体的な取り組みを進めているところであり、より多くの県民の皆様に関心を持っていただきたいと思っています。

人類は、地球上の生物のなかで、唯一、地球の記憶や生物・人類の記憶や感情を、言葉や描写などを通じて、今



に伝え未来につなげる能力を持っている存在です。その記憶や感情を言葉や描写に転換したものを収集し、今を生きる我々に追体験をさせてくれる場が博物館・美術館ではないでしょうか。特に、これからの地球の未来を創造していく子どもたちに、地球や人類の過去を学び、私たちが託すこれからの明るい未来を創り出していくための新たな知恵を涵養してもらうためにも、博物館・美術館は、大いなる努力をしていきたいものと考えています。

(館長 田中 規靖)

「県立博物館は鳥取県内各地域に出かけます！」

移動美術館

日南町美術館

(美術分野)

当館が所蔵する洋画作品を中心に鳥取県にゆかりのある優れた作家たちの作品を紹介します。

会期：平成29年**9月24日(日)～10月8日(日)**
 開館時間：8:30～17:00 (入館は16:30まで)
 休館日：会期中の月曜日
 会場：日南町美術館 (日野郡日南町霞785)



過去の移動美術館の様子

移動博物館

北栄みらい伝承館
(北栄町北条歴史民俗資料館)

(自然・人文分野)

当館の所蔵している自然、歴史や民俗の資料で構成した移動博物館を開催します。

会期：平成29年**10月7日(土)～10月18日(水)**
 開館時間：9:00～17:00 (入館は16:45まで)
 休館日：10月10日(火)、10月16日(月)
 会場：北栄町北条歴史民俗資料館 (東伯郡北栄町田井47-1)



過去の移動博物館の様子

鳥取県立博物館ニュース No.24

平成29年(2017年)9月28日発行

編集・発行 鳥取県立博物館

住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地
 TEL 0857(26)8042(代)
 FAX 0857(26)8041
 URL <http://www.pref.tottori.lg.jp/museum/>
 E-mail hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp

- 入館料：常設展／一般180(150)円
()内は20名様以上の団体料金
 - 開館時間：9時～17時(入館は16時30分まで)
19時(入館は18時30分)まで開館する場合あり。詳細はお問い合わせください。
 - 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌平日が休館日)
国民の祝日の翌日(土、日、祝日の場合を除く)
年末年始(12月29日～1月3日)
- ※具体的な休館日等は、ホームページでご確認ください。



- JR鳥取駅からバスで
 - ④100円バス「くる梨」緑コース「①仁風閣・県立博物館」下車すぐ
 - ⑧ループ麒麟獅子「③鳥取城跡」下車すぐ
 - ⑨砂丘・湖山・賀露方面行「西町」下車、約400m
 - ⑩市内回り岩倉・中河原方面行「わらべ館前」下車、約600m
 - JR鳥取駅からタクシーで…約10分
 - 鳥取砂丘コナン空港から…鳥取駅行連絡バス「西町」下車、約400m
 - お車で…鳥取自動車道・鳥取ICより約15分
- ※当館駐車場21台駐車可能。満車の場合は県庁北側駐車場無料へ

お客様の満足のその為へ…
MORRIX
 株式会社モリックスジャパン
 TEL 0857-23-3641
 本社 鳥取市南栄町203-6
 倉吉店 倉吉市下田中町870 中瀬ビル3F
<http://www.morrix.co.jp/>

引越は日通
 フリーダイヤル ひっこしは日通
 0120-154022